



# 年頭のご挨拶



熊本県国民健康保険団体連合会  
理事長 幸山政史

新年あけましておめでとうございます。健やかに新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

皆さま方には、平素から国民健康保険事業の運営にご尽力いただき、心から敬意を表しますとともに、本会の事業運営につきましても、多大なご支援とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

国民健康保険制度は、ご承知のとおり創設以来、わが国が世界に誇る国民皆保険体制の基盤として、中核的な役割を担い、地域住民への医療の提供と健康の保持増進に寄与しております。

しかしながら、国保の財政運営は、高齢者や低所得者の多くを被保険者として抱えるという構造的な問題に加え、近年、本格的な高齢化の進展や疾病構造の変化、また、医療技術の高度化等の要因により、医療費は年々増大する一方で、経済の低迷等の影響による保険料（税）収入の低下に歯止めがかからず、より一層厳しさを増しております。

このような状況を踏まえ、国においては「社会保障と税の一体改革」の一環で、国民皆保険を堅持し、医療保険制度を将来にわたり持続可能なものとするため、今後の制度の方向性や財源など多岐にわたり論議されております。

我が国の医療制度を取り巻く状況が変化と厳しさを増す中で、保険者を支援する立場にある本会では、保険者とより一層の連携を図りながら、医療保険制度の安定的な運営に向け、山積する諸問題の解決に取り組んでいかなければなりません。そのために、昨年2月に策定した中期経営計画（後期計画）の各事柄を着実に実施していく必要があると考えているところです。

国保総合システムの本格稼働により、診療報酬審査支払事業の効率化と品質向上を図ることはもちろんのこと、後発医薬品（ジェネリック医薬品）の普及促進に伴う差額通知書の作成など保険者サービスの拡充に努めてまいります。また、テレビ・ラジオCMやポスターを活用して、被保険者に対する特定健診受診や国保料（税）収納促進などの啓発活動を展開するとともに、今年10月に本県で開催されます全国国保地域医療学会の成功に向け鋭意努力してまいります。

本会としましては、これまで同様、保険者の皆さま方からのご支援、ご協力を賜りますとともに、国保にご加入の皆さま方、お一人お一人のご健勝とご多幸を心から祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

